

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200210		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム海津「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江627番地		
自己評価作成日	平成27年1月4日	評価結果市町村受理日	平成27年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/1/index.php?act=on_kouhyou_detai_2014_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172200210-00&PrEfCd=21&Versi onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成27年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が、一人ひとりその方らしく暮らしていただける環境づくりに配慮し尊厳が守られるケアを念頭に置き支援に努めている。また重症化の状況にも対応し御家族様や主治医と連携を図りながら終身まで看取らせていただく体制作りをしています。常日頃より御家族様からの相談や要望にも耳を傾けご本人のみでなく御家族様にもご満足いただけるケアが提供できるよう努めています。ここで見てもらって本当に良かったといっていたいただけるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者・職員は、利用者と共に喜び、楽しい雰囲気を作り、利用者の笑顔が見られるケアを実践している。同法人の事業所が隣接し、行事も一緒にするなど協力・連携している。利用者・家族の意向を尊重し、利用者のできる事・したい事を活かした介護計画をたて、自立支援に努めている。身体状況の変化に合わせ、かかりつけ医・協力医とも連携し、本人・家族と話し合いを重ねながら安心できる看取りの支援をしている。代表者や管理者は職員に個別面談で意見・要望を聞き、働きやすい環境づくりに努めている。職員の資格取得を奨励し、事業所の質の向上をめざしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議の冒頭に、運営理念・職員の心得を唱和し、全職員で理念を共有し、日々実践出来るよう努めている。	理念と職員の心得を壁に掲示して、毎月会議で唱和している。理念を基に毎年ユニットの目標、職員自身の目標を立て、利用者も職員も共に楽しめるよう理念を実践している。3月には実践できたかの反省をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺の散歩は、お天気の良い日には近所の喫茶店・公園に時々出かける。地元の小学校の運動会、二つの保育園にはクリスマス会・七夕会等も交流している。	小学校の運動会の玉入れに参加し、地域の行事や資源回収にも協力している。福祉委員として事業所の話や相談などを受け啓発・交流に繋げている。近隣の店舗を利用し季節の野菜なども貰っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に民生委員の方々を通じ、認定調査・認知症そのものについてのお話をする事がある。退所後のアドバイスやサービスの利用について情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4施設合同の運営推進会議において、活動状況や取り組みを報告することにより、お互いを高められるよう努力している。ご家族や地域の方々の意見を伺い、サービス向上に生かせるよう努めている。	事業所合同で開催し会議後、事業所ごとに意見交換をしている。メンバーが参加しやすいアンケート調査や家族にも案内を出しているが参加が少ない。空地に雑草が茂り火災等の心配はないかの意見があり、行政に撤去を頼んだ。	運営推進会議の意義を踏まえ、多職種・地域住民などの参加を地道に呼びかけられることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に高齢福祉課及び消防署幹部の出席のもと、活動状況を把握していただいている。困難事例等の相談や情報提供を行い連携を深めている。	入居手続き、困難事例の相談などに市に向き、協力関係を深めている。連絡書類は市の担当者が事業所まで持って来てくれる。ケアプラン点検事業にも参加をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関する勉強会を職員会議を通じ理解徹底に努めている。入所されているご利用者様に拘束をしない対応を心掛けている。	職員は「身体拘束は絶対にしない」ことを勉強会で確認し、それを徹底させている。ヒヤリハットや言葉づかいなどでも話し合いを重ね、拘束しない介護をしている。拘束しないことは家族にも説明をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会で学んだ内容を参考に、職員会議で勉強会を実施し、正しい知識を理解するように話し合いを検討するような管理体制・職場風土の構築に取り組んでいる。		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、ケアマネ連絡会において勉強させていただき、必要性がある時は活用できるよう支援していきたい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容に変更ある場合は、その都度説明し同意を得ている。今年度は消費税8%になったことの料金改定の説明を行った。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族様には話しやすい雰囲気作りに努めている。ご意見をいただいた時は、職員間で共有し運営の向上に取り組んでいる。 利用者には散歩時・入浴時などに聞いている。家族からは訪問時や毎月の近況報告・年1回実施するアンケートで要望を聞いている。それらのことを申し送りノートに記載し、職員が共有して運営に反映させている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た意見がトップに反映するよう意見の出しやすい職場作りに心掛けている。毎月トップマネジメント会議が開かれている。 年2回の個別面談や休憩時間に意見や要望を聞いている。勤務時間について、シャワーチェアの故障など、気楽に相談や意見が出されて、会議にかけ改善をしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者との密な連携や現場を訪れ、現場で起きている状況の把握に努めて、必要に応じて迅速な対応をしている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々で無料研修等に参加し、心のトレーニングをするよう努め、全職員がスキルアップできるよう努めている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	トップマネジメント会議での毎月の会議や勉強会を実施することで、情報交換できる場がある。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接・ご家族の入所申し込み時、生活状況・家族状況を把握するよう努めている。ご本人の気持ちを受けとめ、寄り添いながら入所生活に生かせる信頼関係作りを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の苦労や今までのサービスの利用状況や経緯について話を伺いながら、早期に信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談事やご本人や家族の思い状況等、確認した上で可能な限り柔軟な対応を行い、必要としている支援に添えるよう相談を繰り返すことに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思い・苦しみ・不安・喜びなど傾聴・共感し、ともに支え合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報の共有に努め、ご本人を支えていくための協力関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	盆や正月に家族と一緒に過ごされる利用者様がいる。ご家族となじみの理容院や医院に出かけられている。人とのつながりが継続できるよう支援させていただいている。	利用者の声を聞きもらさないよう心がけている。希望に合わせ馴染みの美容院・商店に出かけている。幼馴染・仕事仲間などの訪問時の情報を介護記録・介護日誌に記録し利用者の関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しくお食事したり、体操・散歩等を利用して関係が円滑になるよう働きかけている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている		他の施設に移られた場合でも、相談に乗ったり状況把握に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		日々のかかわりの中で雰囲気やしぐさ・言動などから思いや意向の把握が出来るよう信頼関係の把握に努めている。困難な場合は、ご家族からの情報をもとにケアを生かせるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		プライバシーに配慮しつつご本人やご家族等のかかわりの中で、生活歴や馴染みの暮らし方等取り入れていけるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		利用者一人一人の生活のリズム・心身状況を記録し、職員が情報を共通し、申し送りなどを取り入れ現状の把握に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している		ご本人やご家族に日々の生活の中で思いや意見を職員全員で意見交換を行っている。意見をもとに介護計画を作成するよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		個別のファイルに食事量・水分量・排泄状況等身体的状況・日々の暮らしの様子を記録、申し送りし、職員間で状況を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		ご本人やご家族の状況に応じて通院や送迎やご家族の方への夕食を提供をする等個々の満足度を高めるよう柔軟な支援に努力している。	

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に行政・消防署・民生委員・駐在所・自治会長等の参加を呼びかけ、周辺状況や支援に関する情報の交換協力関係を築けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時や入所後もご本人ご家族の希望を確認しながら、協力医療機関がかかりつけ医での継続的な医療が受けられるよう支援している。状況に応じて家族に代わり受診の付き添いも行っている。	かかりつけ医の継続か、協力医に変更するかは家族の意向に合わせている。受診は家族の都合により職員が代行することもある。看護師が、連絡ノートや口頭により、家族やかかりつけ医との連絡をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で体調変化や健康管理に注意を払い、早期の段階でご家族に報告し協力医療機関に受診し投薬できるよう心掛けている。看護職員不在時による併設看護職員との連携をはかり対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様が安心して治療が受けられるよう医師と連絡連携をはかり、情報提供するよう心掛けている。入院時も出来るだけ見舞い、早期に退院支援に結び付けられるよう情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について状況が変化した時など、家族と話し合いを重ね確認し合い、協力医・協力病院と連携をとりながら対応している。	入居時に終末期に向けた方針を説明している。状況変化の時点で「看取り介護に関する指針」を書面で取り交わし、家族・医師と話し合い、確認しながら支援をしている。職員は看護師から看取り時の対応について指導を受け、勉強会も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に迅速に対応できるようマニュアルや連携網を作成し設置している。救命訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の場を利用し、周辺の福祉施設・市町村・警察署との協力体制と、地域住民の方の災害対策や体制について協力体制の構築に結び付けられるよう努めている。	夜間想定、避難訓練、煙体験などを実施している。運営推進会議の場を利用して地域住民と適切な協力関係づくりに取り組んでいる。災害時に備え空き缶で炊飯する体験をしている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の誇りや人格を尊重して言葉かけ等については会議で話し合い、ご本人の気持ちを大切にさりげないケアに心掛けている。	目上の人であることに尊敬の念を持ち、一人ひとりに合った言葉かけをするよう心がけて、対応をしている。排泄・入浴介助では、特に羞恥心に気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方に合わせ声かけし、日常の中で表情や反応を注意深くキャッチしながら、ご本人の選びやすい場面作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、それに合わせた対応を心掛けている。その日のコンディション・様子を見ながら希望を尋ねたり相談しながら過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは基本的にご本人の意向で決めているが、ご自分で決められない方は職員が行っている。美容院に出かけ希望に合わせてカット行う支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望のメニューを工夫したり、季節の行事の料理を取り入れたり、昔ながらの料理などを楽しみながら食べていただけるよう工夫している。	利用者の好みに合わせ、ユニットごとに献立を決めている。巻き寿司を作るなど季節の行事に取り入れている。職員も味などを聞きながら、食卓を共にしている。利用者の好む音楽も流している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調と一日の摂取量を毎日把握している。食事量・水分量も個別に確認するようにしている。トロミ使用の方、水分量の少ない方も支援方法を考えて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状況に添った個別支援にて口腔ケアを行っている。		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の力や排泄のパターン習慣を把握し、トイレでの排泄や自立に向けた支援、トイレに誘導し座ることでの排泄習慣を大切にしている。	一人ひとりの排泄習慣を把握し、排泄サインを見逃さず声かけてトイレに誘っている。入居後自立できた事例もある。一人ひとりに合わせ、自立支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、朝食前に牛乳やジュース等をお出しし、十分な水分摂取の提供に取り組んでいる。体を動かし散歩・体操の声かけしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に合わせてタイミングに合わせて入浴していただく、気分を変えリラックスしていただけるよう入浴剤なども入れるよう工夫している。	利用者ごとに、声かけて入浴の時間、湯温を希望に合わせて、ゆっくり、満足のできる入浴になるようにしている。入浴剤を入れ、歌をうたい、昔話を聞きながら楽しむようにしている。拒む利用者には強要せず時間をずらすなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を促し、生活のリズムを整えるよう努める。また体調や体力に合わせて休息していただくよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方・効能副作用の説明ファイルを保管し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬後にきちんと服用できたか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝える。新聞折り・洗濯物たたみ・ゴミ袋折り・・・。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気分転換の外気浴・テラスでのティータイム、近くの食堂・喫茶店に出かける。	天候に合わせて車椅子の人と一緒に散歩や外気浴をしている。希望に合わせて個別の外出、美容院や買い物にも応じている。中庭の草取りを自分の仕事とする人、家族と外出する人など外出の機会を作り支援している。	

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		お金に関する不安や不満が生じないようにご家族と話し合い、満足していただけるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		ご本人の希望により、家族に電話しやすいように声かけを行う。かけられない場合は、職員が支援している。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		季節の花や行事を行った写真などを活用しながら、暮らしの場を整えている。 玄関には、ひな段飾りで季節感と利用者・訪問者の話題を作っている。中庭からの採光も自然で、居間では利用者の好みに合わせ、くつろぎやすくソファを配置している。畳のコーナーでは洗濯物を置んだり、掘りごたつで寛いだりすることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		食事時 リビングでの席は、仲の良い方・ご夫妻等くつろげるよう工夫している。椅子や机の配置を工夫してゆったり過ごせる様工夫している。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		ご家族の写真や馴染みの品・お位牌など思い出のものを置いていただき、居心地よく安心して過ごしていただけるよう工夫している。 使い慣れたタンス、椅子、ラジカセ、好みの書籍などを持参している。位牌には花を供え、ベットの位置も利用者話し合いながら、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		混乱や失敗が生じた時は、その都度 職員で話し合い本人の不安を取り除き、自立支援につなげられるよう工夫している。	

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200210		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム海津「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江627番地		
自己評価作成日	平成27年1月4日	評価結果市町村受理日	平成27年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2014_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172200210-00&PrEfCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成27年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議の冒頭に、運営理念・職員の心得を唱和し、全職員で理念を共有し、日々実践出来るよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺の散歩は、お天気の良い日には近所の喫茶店・公園に時々出かける。地元の小学校の運動会、二つの保育園にはクリスマス会・七夕会等も交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に民生委員の方々を通じ、認定調査・認知症そのものについてのお話をする事が出来る。退所後のアドバイスやサービスの利用について情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4施設合同の運営推進会議において、活動状況や取り組みを報告することにより、お互いを高められるよう努力している。ご家族や地域の方々の意見を伺い、サービス向上に生かせるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に高齢福祉課及び消防署幹部の出席のもと、活動状況を把握していただいている。困難事例等の相談や情報提供を行い連携を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関する勉強会を職員会議を通じ理解徹底に努めている。入所されているご利用者様に拘束をしない対応を心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会で学んだ内容を参考に、職員会議で勉強会を実施し、正しい知識を理解するように話し合いを検討するような管理体制・職場風土の構築に取り組んでいる。		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、ケアマネ連絡において勉強させていただき、必要性がある時は活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容に変更ある場合は、その都度説明し同意を得ている。今年度は消費税8%になったことの料金改定の説明を行った。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族様には話しやすい雰囲気作りに努めている。ご意見をいただいた時は、職員間で共有し運営の向上に取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た意見がトップに反映するよう意見の出しやすい職場作りに心掛けている。毎月トップマネジメント会議が開かれている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者との密な連携や現場を訪れる。現場で起きている状況の把握に努めて、必要に応じて迅速な対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々で無料研修等に参加し、心のトレーニングをするよう努め、全職員がスキルアップできるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	トップマネジメント会議での毎月の会議や勉強会を実施することで、情報交換できる場がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接・ご家族の入所申し込み時、生活状況・家族状況を把握するよう努めている。ご本人の気持ちを受けとめ、寄り添いながら入所生活に生かせる信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の苦労や今までのサービスの利用状況や経緯について話を伺いながら、早期に信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談事やご本人や家族の思い状況等、確認した上で可能な限り柔軟な対応を行い、必要としている支援に添えるよう相談を繰り返すことに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思い・苦しみ・不安・喜びなど傾聴・共感し、ともに支え合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報の共有に努め、ご本人を支えていくための協力関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	盆や正月に家族と一緒に過ごされる利用者様がいる。ご家族となじみの理容院や医院に出かけられている。人とのつながりが継続できるよう支援させていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しくお食事したり、体操・散歩等を利用し関係が円滑になるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた場合でも、相談に乗ったり状況把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で雰囲気やしぐさ・言動などから思いや意向の把握が出来るよう信頼関係の把握に努めている。困難な場合は、ご家族からの情報をもとにケアを生かせるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつご本人やご家族様等のかかわりの中で、生活歴や馴染みの暮らし方等取り入れていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活のリズム・心身状況を記録し、職員が情報を共通し、申し送りなどを取り入れ現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族に日々の生活の中で思いや意見を職員全員で意見交換を行っている。意見をもとに介護計画を作成するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに食事量・水分量・排泄状況等身体的状況・日々の暮らしの様子を記録し申し送りし、職員間で状況を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて通院や送迎や家族の方への夕食を提供をする等個々の満足度を高めるよう柔軟な支援に努力している。		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に行政・消防署・民生委員・駐在所・自治会長等の参加を呼びかけ、周辺状況や支援に関する情報の交換協力関係を築けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時の入所後もご本人ご家族の希望を確認しながら、協力医療機関がかかりつけ医での継続的な医療が受けられるよう支援している。状況に応じて家族に代わり受診の付き添いも行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で体調変化や健康管理に注意を払い、早期の段階で家族に報告し協力医療機関に受診し投薬できるよう心掛けている。看護職員不在時による併設看護職員との連携をはかり対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様が安心して治療が受けられるよう医師と連絡連携をはかり、情報提供するよう心掛けている。入院時も出来るだけ見舞い、早期に退院支援に結び付けられるよう情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重変化や終末期について状況が変化した時など、家族と話し合いを重ね確認し合い、協力医・協力病院と連携をとりながら対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に迅速に対応できるようマニュアルや連携網を作成し設置している。救命訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の場を利用し、周辺の福祉施設・市町村・警察署との協力体制と、地域住民の方の災害対策や体制について協力体制の構築に結び付けられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である方々に尊厳の気持ちを持って接し一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けに常時対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人が話される少しの言葉や表情から真意を汲み取りご本人に対するケアの情報共有に活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の一日の過ごし方を把握した上で、体調や天候などを考慮し過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えはご本人に選択していただいたり 汚れた服はただちに交換し、整髪支援はご本人やご家族の意向に応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好物を把握して季節の物を嚙下状態に応じて個別の食事形態にて提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量水分量は、介護記録に記入し、一人ひとりの体調等も一目でわかるようにしている。状態に合わせて食事形態、食事ペースにあわせて提供できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや義歯の手入れができる方は、御自分で行っていただきその方の状態にあった支援にて口腔ケアをおこなっている。		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンを把握しご本人の表情やサインを見逃さず迅速に対応できるようにし昼間は、トイレでの排泄支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人の排便状況を把握し水分を多めに摂取していただき体操や散歩の声掛けをして腹部のマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	家庭用のサイズの個浴にご自分のペースでゆっくり入浴できるよう工夫している。入浴剤や冬至にはゆず湯等季節感も味わっていただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの体調や体力を把握し適度に昼寝を行うなどして休息したり安眠できるよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい処方箋は職員がいつでも確認できるよう設置してある。利用者の状態に応じて確実に服薬できるよう飲みやすさ飲むタイミングの工夫をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日のかかわりの中で出来ることを見つけ出し楽しみにつながるように支援し気分転換を兼ねて掃除等のお手伝いも一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や天候に応じて行っている。近所の喫茶店、公園、ドライブ等にでかけている。		

グループホーム海津「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金に関する不安や不満が生じないように御家族と話し合い満足していただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により電話しやすいよう声掛けし直接お話できるように支援している。かけられない場合は職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にイベントの飾り付けをして季節感を取り入れ生活感が伝わる空間作りを工夫し心安らげるように支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内のソファーや食卓の席には仲の良いかたが、近くで過ごせる様工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使用されていた品使い慣れたものを居室においていただき精神的負担がかからないよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や車椅子での動線確保に気を配りご本人の不安を取り除き自立支援につなげられるよう工夫している。		